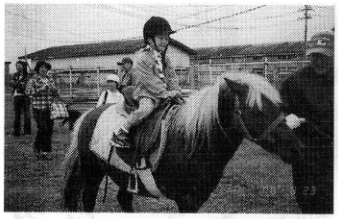
# 薫風・満天フィールド交流塾

## 自然と農業「遊び」を通して結ぶ 若者と社会

### 大潟村 県立大学の提案採用



県立大学の「薫風・満天フィールド交流塾」夏まつりが同大学生物資源科学部の同交流塾主催で八月二十三日、大潟村の同大学大潟キャンパス・フィールド教育研究センターで行われた。

文部科学省が学生を対象に昨年からスタートした新事業で、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」。目的は学生の人間力を高め、人間性豊かな社会人を育成するために、「①入学から卒業までを通じた②組織的かつ総合的な③学生の視点に立った」独自の工夫や努力により特段の効果が期待される同プログラムを選定し、広く社会に情報提供すると共に財政支援を行うというもので、支援期間は四年間（平成19年度～22年度）、年間最大二千五百万円、支援金額は一億円。

国の同プログラムの選定に向けて応募した県立大の「薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力」～遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶ～は、全国の国立、公立、私立大学の二百七十二校の申請から採用された七十校の中に選ばれた。選定理由は、「学生に自然や農業との交流で『遊び』を起点として、人や社会に対する様々な『気づき』を持たせ、最終的に『人間力向上』を図ろうとするもので ある」として、取組みのアイディアとユニークさが評価された。

採用された同プログラムは、豊かな自然の中で様々な体験をし、逞しく充実した学生生活を送り、社会に薫風をおくり、満天の星のごとく輝く人物像になることを期待した名称で、若者の人間力向上という社会的要請に応えるため、自然と交流（遊び）と農業の教育力などを活かした学生支援を行い、創造力に富み社会性豊かな人材を育てるのが目標。交流塾の根拠はフィールド教育研究センター（大潟村の同大学）に置くもので、実施計画は▼一年目（19年）＝運営体制構築、メニュー整備、施設整備▼二年目（20年）＝大学間ネットワーク構築、ものづくり工房、ギャラリー整備▼三年目（21年）＝東北・北海道農業・農村学生フォーラム、書籍刊行準備▼四年目（22年）＝全国農業・農村学生フォーラム、書籍刊行、シンポジウム開催。

初年度の活動内容は、▽ハタハタ満喫▽ハタハタ鮨の製造▽アイスキャンドル作り▽キリタンポ作り▽比内地鶏の薫製と豚肉ベーコン作り▽雪まつり▽春を見つけよう―などの八企画を体験した。

「夏まつり」には、村内外から家族連れなど多くの人が参加。**大型熱気球搭乗体験**では、直径二十mの気球に乗った親子連れがおよそ三十mの高さから村を眺めて歓声を上げていた。また、**動物とのふれあい体験**では、子供らがポニーでの乗馬に興じ、ダチョウや山羊などにふれあい、アベック連れなどが**三人乗りの小型ボート**で南の池を遊覧したり、学生が作った**ソーラーカーの試乗体験**を楽しんだほか、農業者以外は日頃触れる機会が少ない、大学で所有する**大型農業機械の試乗体験**での圃場めぐりを興味津津に体験していた。

今年度に入り、夏までに実施した主なメニューは、▽村づくり（交流塾の拠点づくり）▽山菜採り▽釣り（渓流・湖水・海）▽山歩き（お山かけ）▽天体観測▽いかだ、カヌー乗り▽ロッククライミング▽たい肥、野菜、バイオエタノールづくり▽キャンプと世界各地の打楽器ライブ―などで、秋以降のイベント予定としては、▽雪中散歩▽スノーモービル▽アイスキャンドル▽発酵食品づくり▽漬物づくり▽地域農家との交流▽ハタハタ漁見学▽雪まつり―など、様々な企画が折り込まれており、活動成果が「遊び」を基に地域住民や社会との交流が、自然と農業の「人間力」を高める意欲につながっていくような気がする。

2008.9.15 日の出新報